(12)

東邦大学薬学部

経営研究

東邦大学薬学部の「薬局経営研究部」は、薬局の 経営だけでなく、その時々の話題やトピックスなど も研究している。「ちょっと日陰な部活でマイナーな イメージが強い」というが、「社会に出て役に立つこ とに取り組んでいる。クラブではそういった点をア ピールして、全員が力を合わせて活動している。最 終的に薬局経営研究部に入部して良かったと思える ようにしたい」と語る。実際にどのような活動を行 っているのか、部員らから話を聞いた。

ち の

学生

新

聞



薬局経営研究部の2年生



足を使った実践的な調査も

部活動では、業界のトピックスや経営につ いて、夏休みに研究テーマを決め、「実験班」 と「研究班」の2班に分かれて調査・研究を 行い、その成果を学園祭で発表する。現在の 部員数は2年生が5人、1年生が17人。

インドアな部活と思われがちだが、活動的 な面もある。過去、キャンパス周辺の商店街 で、①薬について、薬剤師に何を聞いている か②薬の選び方やその根拠――などの基本的 な事項について、通行人200人に街頭アンケ ートを実施したこともあるという。また、大

学付近の薬局で、患者に対してど のような情報を提供しているか等 について、アンケートを実施した 経験もある。室内に籠もって文献 を調べたりするだけでなく、「足 を使っている」と実践的だ。

研究テーマについては、 「一般の人に薬のことなど をよく知ってもらいたいの

で、身近なテーマで研究と実験を行い たい」としている。昨年の場合にはカ ルシウムについて、2班に分かれて調 査研究に取り組んだ。

研究班では、体内のカルシウム量が 不足しているという問題を取り上げ、 どれくらい不足しているか、体重当た りどれだけの量が必要かといった点に ついて、カルシウムの体内での役割に 関する情報も盛り込んで調査した。

実験班では不足しているカルシウムを、煮 干しや昆布、鰹節といった食材からどれだけ の量を摂取できるか調べた。食材だけでなく、

だし汁の取り方も検討し たが、各食材の間に大き な差は見られないという のが結論だった。

今年は、薬局経営の原 点に立ち返り、医療保険 制度や薬局の収益性など を研究している。そのほ

> か、大きな話題になっている一般名処 方とジェネリック医薬品の関係につい ても取り扱っていくという。

> 「薬剤師にも経営の知識が必要だと 思う。ただ漫然と働くのと、経営の問 題を意識して働くのでは大きな差があ る。また薬局の経営だけでなく、患者 さんの医療にかかる費用についても理 解できていれば強い」と考えている。

> 薬剤師には、薬剤や疾患などの情報 について、患者に分かりやすく説明す ることが求められる。部活を通じて得 た様々な経験が、将来きっと医療現場 で生かされるに違いない。

0

OBの声

東邦大学教授 百瀬弥寿徳氏

顧問の百瀬弥寿徳教授は、薬局経営研究 部出身。百瀬氏が在籍していた当時の薬局 は、雑貨を売るケースが多かったため、 「薬局を経営するには、どのような知識が 必要か知りたかった」というのが、入部の きっかけ。

「当時の調剤業務は現在と異なり、処方 通りに薬剤を調剤し、患者さんに渡すだけ という非常に単純な仕事だった。だから研

究者の道へ進むことに決めた」とい う。まだ、医薬分業が現実となって いなかった時代。そのため「医薬分 業というシステムを大切にし、患者 さんはもとより、医師などの医療従 事者からも、信頼されるようになら なければならない」と話す。

分

ス

テ

また、医師や看護師、患者から 「薬剤師がどのような業務を行って いるか、理解されていない。アピー ルが足りない。医療人と商売人とい

う二面性を持つ薬剤師は、自分に何ができ るかを把握することが大事」と指摘する。



学生に対しては、「現在、患者さんはイ ンターネットなどを活用して勉強してお り、生半可な知識では対応できない。患者 さんにしっかりと、薬剤や疾患の情報を提 供できることが重要」と促した。

就職活動&コミュニティ Can Pass* Net



新しい『人』と『人』とがつながる。キャンパス*ネットは日本初の医療系学生向けソーシャルネット。 就職情報はもちろん看護学生、医学生、薬学生とのコミュニティも充実しています!

◯◯ 医療系学生のソーシャルネットワーク (▽▽▽▽

(株)グッピーズにより運営されています。





11月19日 BAM11:00~ 場所:新宿野村ビル48F









- ●薬剤師の仕事研究(病院・CRO)
- ●OB/OGとの交流
- ●メークアップ講座など、催し多数。